

それから酔月に酒井が待つてゐると言ふので、行つて酒をのむ。

一人の女が入院するんだ。

ズボンの隠衣に縊られた破壊がある。

では老衰しよう。

人間と題する詩だ。

あくる日宗さんが何か書いてくれと言ふので、障子紙に之を書いた。

立往生した辯士が来て、僕を二重人格だとか言つて腹立てゝゐたと言ふ。

有島武郎に、藏書を譲り渡して貰えるか貰えないか、いくら位か、手紙を書いて呉れないかと